

10月9日 記者会見まで
非 公 開

経済産業振興部企業立地課
R061003 部長会議資料01

長野市産業立地ビジョン(案)に対する 市民意見等の募集(パブリックコメント)の 結果及びビジョンの決定について

(1) 実施概要

募集期間	令和6年8月19日（月）から9月19日（木）まで
公表方法	記者会見、広報ながの9月号、市ホームページ、窓口での閲覧
ビジョン（案）の閲覧場所、意見・提案用紙の配布窓口	市役所企業立地課、各支所、行政資料コーナー、ホームページ
提出方法	ながの電子申請サービス、メール、郵送・FAX、持参

(2) 実施結果

- ・ 意見等の提出者数 3名
- ・ 意見等の件数 5件
- ・ 意見等に対する対応

対応区分	対応方針	件数
1	ビジョン（案）を修正する。	0件
2	ビジョン（案）に盛り込まれており、修正しない。	0件
3	ビジョン（案）を修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。	3件
4	検討の結果、ビジョン（案）を修正しない。	0件
5	その他（質問への回答、状況説明など）	2件
合計		5件

※ 錯誤修正及び、一部表現の修正を行いました。

対応区分3 ビジョン(案)を修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする(1/2)

該当ページ・内容	意見等の内容	市の考え方
1ページ 1.1 策定の目的 51ページ 第7章 立地環境整備	策定の目的が人口減少・少子高齢化や首都圏への一極集中が懸念され、それを補う環境整備として産業立地ビジョンがあるならば、長野市に住んで働いてもらう政策も併せて加えてほしい。又は並行で示してほしい。 第7章の立地環境整備で人材確保が必要としている中で、候補地の近隣の利便性の良い市街化調整区域への住宅建設を可能にし、県外からの移住を促進するなど、産業立地と同様に都会にはない長野市のメリットを生かしてほしい。	市街化調整区域は、住宅建築等の開発を抑制すべき区域であり、原則、住宅団地の造成等はありません。また、市内では住宅総数が増加傾向である一方、空き家は増加しており、住宅については、量的には充足しており、住宅建築を市街化調整区域で可能にする例外的取扱いの必要性は認められません。 産業立地施策を進める中で、従業員の住まいも生活基盤の1つの要素でありますので、今後の取組の参考とさせていただきます。
10ページ 2.2 製造業の特徴 20ページ 3.1 立地意向について	付加価値額が相対的に低い産業を支援して底上げを図る選択肢と、付加価値が高い、または客観的かつ論理的に今後高くなるポテンシャルがある産業を中心に支援する選択肢の比較検討をした結果が掲載されておらず、製造業の底上げを図る必要があると結論づけていることの説明が不足している。 また、産業用地の確保の根拠となるアンケートも対象業種が偏っており恣意的ではないか。	本ビジョンは、製造業のみならず各種推進分野の企業立地を推進することにより、経済基盤強化や持続的な発展を図ろうとするものです。今後、ビジョンの実現に向けた取組を進める中で、より政策効果の高い業種や企業の立地を検討していきます。 また、アンケート調査については、産業立地の受け皿となる産業用地について、その需要を確認するために実施したものであり、相当程度の需要が確認されました。

対応区分3 ビジョン(案)を修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする(2/2)

該当ページ・内容	意見等の内容	市の考え方
53ページ 7.2 財政的支援の充実	助成金・補助金、減税、融資以外にも、事業リスクに応じたエクイティファイナンスに関する支援は存在しており、長野市の財政支援として多様な財政的支援の在り方を示す上においても、エクイティファイナンスの支援項目も追加するもしくは、記載しない理由を明記すべきではないか。	この項目では、行政が主体となる財政的支援を整理しています。 社会の変化に伴い、様々な資金調達手法が出てきている中で、長野市が果たすべき役割を含め、効果的な支援方法について研究していきます。

該当ページ・内容	意見等の内容	市の考え方
17,18ページ 2.4 本市経済を取り巻く社会経済情勢 52ページ 7.1 人材確保・育成支援の強化 56ページ 7.4 魅力あるまちづくり	若年層の転出超過への対策として、ライフスタイルや価値観の多様化への対応ほか、若者が求める働き先の確保や柔軟な働き方などに言及しているにもかかわらず、それらとの関連や若年層の人口流出対策として有効であるという根拠を示さないまま製造業の強化とそのための団地造成・企業誘致という旧態依然の手法を進めようとしており、目指す姿と進める手法が整合していないのではないか。	本ビジョンは、製造業のみならず各種推進分野の企業立地を推進することにより、経済基盤強化や持続的な発展を図ろうとするものです。 さらには、人を呼び込み都市の活力を高めていくため、若年層を含む働く人の視点での魅力あるまちづくりを目指しているものです。
56ページ 7.4 魅力あるまちづくり	20代の女性は、長野市にあまり魅力を感じなかったり、生きづらさを感じ、もっと良さそうなところへ出ていってしまうのではないか。長野駅周辺へ行っても日常から離れたり逃がれて自分と向き合う時間を過ごせる居場所がないと思う。 心を癒し満たしてくれる芸術や音楽等は、生きる上で大切だと思うので、そこでどう過ごしどんな気持ちになるかといったことも考えて決めてほしい。木の温かみを感じる図書館か書店に広いカフェがあり、レコードや海外の雑貨を置いたゆったり過ごせ一息つける素敵な場所があったらと思う。	本ビジョンは、若い世代の人口流出を1つの背景とする中、産業立地を通じ、人を呼び込み都市の活力を高めていくため、若年層を含む働く人の視点での魅力あるまちづくりを目指しているものです。 市民や地域、行政、企業や教育機関など様々な主体が連携して、若者が働き・暮らしたいまちづくりにも取り組んでいきます。

Action

産業用地整備

- ・ 国の制度を活用した産業団地開発調査
- ・ 既存産業用地と立地ニーズのマッチング

企業誘致

- ・ オフィス環境に関する基礎調査
- ・ 立地企業の掘り起こし

立地環境整備

- ・ 企業との対話の強化
- ・ 助成制度の充実

(1)令和6年9月議会

意見等の内容	市の考え方
魅力を発信することによって、若い世代や女性が長野市で働いていただけるか、というところが見えにくくなっている。もっと長野市としてどうするかということを示してほしい。	本ビジョンは産業立地の推進をきっかけとして、働きやすいまちづくりというキーワードで横串を刺して、まちづくりをしていこうという方向性を示したものです。 今後の取組において検討します。
郡山市の企業向け映像資料など、そういったツールが長野市は不足しているので、充実をお願いしたい。常総市など国際的に展開している企業が間に入って、大きな物流拠点が実現している。幅広く取り組んでおり、うまく連携している事例があるので参考にして検討してもらいたい。	今後の取組の参考とします。
ビジョンの本編に検討するという言葉が多数出てくる。検討するだけで終わらせてもらっては困る。 検討したけどできませんでしたという逃げ道は作らないでほしい。 計画段階からそんな逃げ道は作らない。そういう観点から全面見直してもらいたい。	表現の見直しが可能な箇所については、修正します。

意見等の内容	市の考え方
電子機器事業所は、電気や道路などをきちんと整備しないと駄目だと思う。また、社員が車通勤だとすれば、壮大な駐車場の数が必要になってくるので、当然のことながら渋滞も起きてくるということを考えれば、様々な面でのインフラ整備を合わせてやらないとかなり難しいのではないかなと思う。 特に公共交通機関は、ほとんど機能していないような状況にあるので、今後どうするかも合わせて考えないといけないと思う。例えば、最寄りの駅、ターミナル駅、篠ノ井や長野、北長野になるのかもしれないが、そこから候補地へのシャトル便のバスを出すぐらいのことはやっていかないといけないのではないかな。	新たな産業団地開発をはじめとする産業立地施策を推進する中で、ご指摘いただいた点も含めた周辺のインフラ整備も併せて検討します。
せっかく、長い時間とお金をかけて土地を用意するので、「土地が安いから進出する」ではなく、「社員が元気に活躍してくれそうだから長野市に進出したい」など、積極的な理由で進出してもらえよう、メッセージの発信に取り組んでももらいたい。	今後、産業立地施策を推進する中で、取組の参考とさせていただき、積極的な情報発信に取り組みます。
長野県の施策とのシナジーを意識して推進してもらいたい。	今後、長野県や近隣市町村等との連携を強化しながら、各種産業立地施策を推進してまいります。